

# はじめに

## 『患者必携 がんになったら手にとるガイド 普及新版』について

「“がん”といわれて、つらい。でも、自分なりに向き合いながら、治療とこれからのことを考えていきたい。」

『患者必携 がんになったら手にとるガイド 普及新版』は、“がん”と診断されて間もない患者さんの想いに寄り添い、支えることの助けとなることを目指して、「信頼できる、役に立つ情報」をわかりやすくまとめたものです。

想いや悩みと向き合い、自分なりの解決のために取り組んでみること……  
診断や治療の考えを整理したり、担当医など、医療者と話し合うこと……  
療養生活のことで、自分の生活を思い描いて、備えていくこと……  
経済的、社会的な支援の仕組みを知って、生活に取り入れていくこと……  
この本を、こうしたことにぜひ活用してください。

あなたが関心を持って、知りたいと思うことについて“読む”とき、聞きたいいろいろな情報を整理して、あなたが大切にしたいことを“書く”とき、納得できる治療を受け、療養生活を過ごすために、あなたの望みを“伝える”とき、あなたが、お住まいの地域の支え合いの場や支援の仕組みと“出会う”とき、そんなときにあなたの想いを支え、自分らしい生活を送るあなたのお手伝いをするためにつくりました。

この本が、担当医などの医療者、身近な家族・友人と一緒に、あなたが納得して、自分らしい向き合い方をしていくために少しでも力になれることを、心から願っています。

国立がん研究センターがん対策情報センター



## 『患者必携 がんになったら手にとるガイド 普及新版』を活用していただくために

『患者必携 がんになったら手にとるガイド 普及新版』は、自分らしい向き合い方を考えていくために読む“がんになったら手にとるガイド”と聞いたり調べたりして理解したことを書きとめて整理する別冊“わたしの療養手帳”から構成されています。

“わたしの療養手帳”は、のり付けされているので、取り外してお使いいただけます。医療機関で受け取った冊子や資料などとともに、市販のバインダーと一緒に綴じて使うと便利です。入院の間だけでなく通院のときにも、“わたしの療養手帳”を持っていかれると診察や説明の際に役に立つと思います。

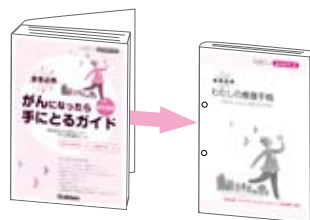
また、本書を持って外出するときは、お気に入りのカバーをかけるのもよいでしょう(カバーは裏面にしてもお使いいただけます)。

普及新版作成にあたっては、以前の版(2011年3月発行)を利用された患者さん、ご家族、医療者のご意見ご提案に加え、平成24年6月に策定された「がん対策推進基本計画」をはじめとする、がんになっても安心して暮らせる社会を目指したさまざまな施策や取り組みを踏まえて、以下の変更を行いました。

- ・療養生活を支える就労環境をはじめとして、社会とのつながりに関する内容を拡充しました。
- ・「元気づけられた」「参考になった」と好評の「患者さんの手記」を大幅に追加しました。
- ・がんの種類ごとの情報を「がん情報サービス(<http://ganjoho.jp>)」に移行し、手に取りやすくなりました。

また、各都道府県で、お近くの医療機関や相談窓口などの情報を取りまとめた「地域の療養情報」を作成する取り組みが進んでいます(本書の表紙の裏側、または78ページを参照してください)。

わからないことがあったらお気軽に近くの「がん診療連携拠点病院」などのがん相談支援センターにお問い合わせください。



## 医療者の方へ

『患者必携 がんになったら手にとるガイド 普及新版』は、患者さんと医療者とのコミュニケーションを支援するツールです。

診療の経過の中でその時々患者さんに知っていただきたい情報について、参考になるページをお示しするなど、診療や療養生活に関する説明や情報提供などに、ご活用ください。

\* 地域における『地域の療養情報』の取り組み状況については、お近くの「がん診療連携拠点病院」などのがん相談支援センターにお問い合わせください。